

令和2年度 山梨県立白根高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 「自主自立」・「進取研鑽」の校是の下、幸福な人生を送るために必要な資質・能力を身につける生徒の育成を目指す。

山梨県立白根高等学校 校長 相沢 季里

本年度の重点目標	主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進
	規範と相談による生徒指導体制の確立
	幸福追求を目的とするキャリア教育の推進
	体育・文化活動による健康・安全教育の充実

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(令和3年1月15日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進	主体的・対話的で深い学びを重視した授業研究等、組織的・計画的に取り組み、授業改善を図ります。 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるため、家庭学習を推進し、主体的な学習の定着を図ります。	校内研修会の実施状況 相互授業観察(授業観察シート)の分析 学校改善アンケートによる評価・分析 二者・三者懇談 単元全体の学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成に努め、学力の向上を図ります。	B	・次年度以降も積極的に授業参観を実施し、互いに学び合教師職員集団にしていく。 ・家庭(保護者)との連携をさらに深く、家庭学習時間の確保と、授業と家庭学習との有機的な繋がりを図ることは昨年度からの課題と認識しているが、次年度以降も引き続き取り組んでいく。 ・クロスカリキュラムについては、次年度も継続して行い、スクールスローガン「HAPPY」を実現すべく、教科を超えて学校全体で組織的に取り組んでいく。
2	規範と相談による生徒指導体制の確立	学校全体として組織的な生徒指導体制を確立し、規範意識の向上を図り、基本的な生活習慣の確立に努めます。	模造・身だしなみ指導 及び昼下校指導・マナーアップ運動の実施状況 SCの活用状況 生活実態調査の結果分析 ホームルーム活動や生徒会活動等を通して、自立した生徒の育成に努めます。	B	・学校の教育目標及び校長の運営方針を職員会議や個別面談等で教職員への理解を図り、チームとして生徒指導に取り組む協働体制を構築することができた。 ・特別支援・いじめ防止委員会を実施し、共通理解を図り、気になる生徒の情報共有、課題や問題点を認識するとともに、次年度に向けた対策を検討した。 ・地域社会との関わりを強化するため、今年度はコロナ関係でなかなか実施できなかったわがまま支援学校との交流やフッドバンク山梨への協力を次年度以降も積極的にやっていく。 ・令和3年度のコミュニティスクール校として、地域の各関係機関と連携を密に行っていく。
3	幸福追求を目的とするキャリア教育の推進	生涯の幸福追求を目的とし、個々の「在り方生き方」を考えさせるキャリア教育を推進します。 インターンシップの充実を図り、進路選択の基盤となる望ましい勤労観・職業観を育成します。	総合学習・探究の時間を活用した課題やレポートの内容評価 実施後のアンケートで、生徒の達成度8割以上 各事業終了後のアンケートで、「役に立った。」と回答する生徒8割以上 活動報告と学習後のアンケートによる評価・分析	A	・生徒の多様な進路目標を実現させるため、教育課程の編成や授業改善、小論文・面接の個別指導などにおいて、さらに工夫・改善を図っていく。 ・今年度はキャリア教育の重要な活動であるインターンシップやフッドバンクやまなしの活動が出来なかったが、限られた範囲の中で、総合学習や看護師体験等を通して、社会性向上に努めた。 ・コロナの影響で進路を更にする生徒もいるのではないかと、コースを選択した後も再び進路先を生徒に聞くことも必要なのではないか。 ・生徒の多様な進路に適切に対応して下さい。
4	体育・文化活動による健康・安全教育の充実	部活動に積極的に取り組む生徒を育て、学業と部活動の両立を促して、学校生活に対する充実感や達成感を体験させます。 部活動を通して、生徒と教師・生徒同士の望ましい人間関係の形成を図るとともに、学習意欲の向上や責任感・連帯感・忍耐力を培います。 部活動に打ち込める環境を整えるとともに、適切な部活動運営を図り、部活動を通して学校の活性化に努めます。 家庭や地域社会と連携し、安全教育を推進することで、健康で安全な人生を送るために必要な資質・能力の育成に努めます。	学校HPや広報誌の活用状況 学校評価アンケートによる評価・分析 活動報告と学校評価アンケートによる評価・分析 活動報告と学校評価アンケートによる評価・分析	A	・各部において、年間及び月間の活動計画を策定し、生徒が見通しを持って活動できるよう努めた。また、メリハリのある活動を継続して行い、学習との両立を図っていく。 ・部活動への参加率をさらに上げ、部活動が活気で行われる環境を醸成し、生徒の学校生活の充実と学校の活性化に繋いでいく。 ・外部団体(所属)に所属している生徒に対しても、学校生活の充実、特に学習との両立がなされるよう関係団体とも協力して指導していく。 ・バイク通学者対象交通安全運転講習会を年2回、交通安全指導、防犯教室等々を重点実施し、安全な人生を送るために必要な資質・能力の育成に努めた。

学校関係者評価	
実施日(令和3年2月15日)	
評価	意見・要望等
3	・コロナ禍の休校中、学習に取り組ませるのは大変だったと思う。スケジュール組み直しが必要であり、時間に限りがある中での取り組みに感謝している。 ・今年度はコロナ禍の中で臨時休校もあり、学習時間の確保やメンタル面の維持等かなり厳しい環境下、可能な限り学力向上に努力したと評価したい。ただし、家庭学習においては学習時間の改善が大きな課題である。 ・家庭学習のできている生徒とできていない生徒との差があるのではないかと。 ・学校目標である「HAPPY」を確実に遂行してください。
4	・模造や身だしなみについては2年ほど前と比較し、格段に良くなっていると感じる。 ・コミュニティ・スクールとして、地域との交流から生まれる学びに期待している。 ・例年と異なる業務運営下であったが、学校生活における生徒の規律に問題はなく、きめ細かな生徒指導体制が十分機能した評価できる。 ・令和3年度はコミュニティ・スクールに移行することから、さらなる地域との連携強化による生徒への好影響を期待している。 ・今年度は特にコロナの影響で進路上で生徒とのコミュニケーションを図ることが大変だったと思う。学校に来れなくなった生徒もいるのではないかと、フォローも大変だったと思う。 ・教職員全体で理解出来ていると思います。
3	・今年度は就職体験等を実施することは難しかったと思うが、次年度以降も進路を問っていたらいいと思う。 ・今年度はキャリア教育の重要な活動であるインターンシップやフッドバンクやまなしの活動が出来なかったが、限られた範囲の中で、総合学習や看護師体験等を通して、社会性向上に努めた。 ・コロナの影響で進路を更にする生徒もいるのではないかと、コースを選択した後も再び進路先を生徒に聞くことも必要なのではないか。 ・生徒の多様な進路に適切に対応して下さい。
4	・コロナ禍により部活動が制限される中、生徒に自主的にトレーニングに取り組ませるなど、例年とは違った指導力が必要だったと思われるので、先生方のご苦労は大変だったと思う。 ・コロナ禍での部活動の制限により、十分な活動時間の確保は厳しい状況の中で、例年通りの結果は評価できる。 ・体育・文化活動は望ましい人間関係に欠かせないことから、今後も、運営方針の重点項目として、活動環境の整備に努めていただきたい。 ・HPの充実による活動状況の公開状況は大いに評価したい。 ・先生達の負担も大きいですが、他校に比べて、放課後と休日の部活動がさびしい感じがします。もっと活気がある学校になることを期待します。 ・知育・徳育・体育を実施してください。

※添削 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。